

---

---

## 海洋会ボランティアクラブ 趣意書

---

---

今日ではボランティアによる活動が一般に広く認識され大震災や災害時の支援活動として不可欠の要素になっているが、海洋会の会員が自主的に集って始められたボランティア活動は、重要文化財「明治丸」の保存、湘南海岸でのビーチクリンナップ活動などに起源を辿ることができ、「海洋会ボランティアクラブ」（海洋会 VC と略）として平成3年8月1日に会則が制定された。

海洋会 VC は、ビーチクリンナップ活動などを通じての地域貢献はもとより、140年になんなんとする大学の歴史、これに重なる「明治丸」の歴史を、次代を背負う青少年に継承していく責任も果たしてきている。

島国の日本は、江戸時代の鎖国政策の後、明治維新を機に開国し積極的に海外との交流や交易で国作りを実現した。その礎をなしたのが海運である。

坂本龍馬や勝海舟らが開国後の日本を見据えて航海練習所を開き、彼らの意思を引き継いだ三菱の創始者、岩崎弥太郎が私財を投じて商船大の魁を創設し、一方、明治政府が開国の必須条件である灯台を設置し、陸路からのアクセスのままならない灯台への補給船として英国へ発注したのが「明治丸」である。

20年余の灯台補給船としての役目を終えて、「明治丸」は商船の船員を養成する係留練習船として、3本マストのシップ型に改装されて越中島で幾多の艱難にも耐えて、今日まで勇姿を見せている。ここ数年間は、昭和の修復後の20余年の風雨にさらされた結果、帆桁を下ろして修復への備えを進めてきたが、その努力が認められて平成26年度末には平成の修復が完了する見通しである。

海運（商船）の有り様も時代の流れとグローバル化の中で、商船大の名前が消えて、はや10年を経過し、東京、神戸共に新たな歴史を刻んできている。しかしながら、商船の役割は航空機時代全盛にあっても些かも不変の物流の根幹を担っている。

ロジスティックスの最先端としての商船、これを支える陸上のコンテナターミナル、10,000個に及ぶコンテナの積み下ろしを1～2日で達成する積荷コントロールのシステム、さらには陸上の輸送システムとの連携など、正に貿易立国の根幹を担う我が後輩たちの活躍を思う時、我々が築いてきた Seamanship や商船魂、さらにはその揺籃ともいえる船舶として唯一の国の重要文化財、「明治丸」に象徴される開国日本を支えた我々が諸先輩の地道な活動の歴史の実績を再認識すると共に、改めて「明治丸」の存在を極めて重要なものと認識するところである。

ここに商船大 OB、海洋大 OB、神戸大 OB に広くお声掛けをさせていただき海洋会 VC へのご理解、ご協力をお願いするとともに当会へのご入会を勧誘致します。

海洋会 VC 代表幹事 谷山 洋